令和７年度第１回高知市上下水道事業経営審議会　会議録（概要）

日時：令和７年 11 月 12 日(水)9：30～12：00
場所：高知会館　平安の間

出 席 者【委　　員】那須 清吾委員、藤原 拓委員、山中 尊滋委員、谷 隆委員、井津 葉子委員、北川 一江委員　　計６名
【上下水道局】山本上下水道事業管理者、児玉上下水道局長、森岡上下水道局次長、土居上下水道局次長　他 19 名
会議形式　　公開
傍 聴 者　　２人

１　開会あいさつ

山本上下水道事業管理者から開会のあいさつ

２　下水道管路の全国特別重点調査について

那須会長から、本日のスケジュールの説明後、事務局に対し、次第２「下水道管路の全国特別重点調査」についての説明依頼があり、町田管路管理課長から説明。

【質疑応答】

〇山中委員

公表された調査結果の緊急度Ⅰのうち、ランクAとは実際どのような劣化状況なのか。

●町田管路管理課長、長崎下水道整備課長

損傷の度合いによってランク分けがされており、主なものとして侵入水であれば、ランクAは管の中に噴き出ている状態、ランクBは水がチョロチョロ出ている状態、ランクCは水がにじみ出ている状態といった具合である。ひび割れのあるスパンなどを総合的に判断し、緊急度Ⅰという判定になっている。

〇谷委員

緊急度Ⅰは即対応しないといけないものなのか。市民感覚からすると、リスクが高いように感じられる。緊急度Ⅰだが、一定の対策を取れば当面安全だというような説明をしてもらえると市民感覚としては納得できるのではと思う。

●長崎下水道整備課長

緊急度はⅠ・Ⅱ・Ⅲと分かれていて、緊急度Ⅰは速やかに対応することとなっているが、緊急度Ⅰの中にも濃淡があり、今回の場合は実際の損傷をみてみると即座の対応は必要ないと判断し、必要な修繕を速やかに実施するために準備を進めている。

なお、緊急度Ⅰとなっていて、陥没に影響があるような浸入水が確認された箇所については、１年以内に対応することとしている。

○那須委員

日常的な点検はされていると思うが、今回の緊急点検は万が一、八潮市のような事故が起こるといけないので、ランクＡの中でも特に危険なものを発見して、懸念点を払拭しようとするものという認識でよいか。

●長崎下水道整備課長

そのとおりである。補足すると、八潮市の事故は下水道管内の硫化水素により、比較的広範囲に下水道管が腐食し崩壊したものであるが、本市の直径2m以上の管については、雨水管や合流管という雨水も流れている管で、現在のところ硫化水素による広範囲な腐食は確認されていない。ランクAと判定された損傷であっても、局所的に浸入水がある程度で、大きな崩壊につながるようなものではなく、陥没につながるものではないと確認している。

○藤原委員

下水道管内に入って行う潜行目視調査は精度は高いが、危険を伴う調査だと思う。高知市としてこの潜行目視調査に対し、どのような安全配慮をしているのか。

●町田管路管理課長

点検業者には、マンホールに入る前の硫化水素濃度の確認や、送風換気を徹底すること等を指示している。危険性がある場合は、酸素ボンベを使用したり、カメラ調査を行うといった対策を取り安全に調査することとしている。

○井津委員

八潮市の事故のような類似事例が万が一発生した場合、できるだけ早く対策を取り、日常生活を取り戻せるような対策として、日常的な訓練を行うようにしてはどうか。

●森岡次長

緊急時の対策としては、南海トラフ地震対策として、下水道事業の BCP を作成し、処理場が使用できない場合などを想定して訓練している。地震以外の事故等への対策も、南海トラフ地震対策と併せて訓練していきたいと考えている。

○北川委員

今回の調査結果や現在の状況に関する広報の仕方として、安心感を与えるような広報を行ってほしい。また、調査の今後がどうなるのか。どのように修繕していくのかを広報して欲しい。

●山本上下水道事業管理者

９月の調査結果が公表された際には、下水道管への一定の浸入水は確認されるが、直ちに八潮市のような状況になる損傷ではないので安心してほしい、引き続き調査を続けながら、最終的には管路の更新にあわせた耐震化を行っていく、といったアナウンスをさせていただいた。今後も調査結果や今後の方針について、市民の皆様に分かりやすいように発信していく。

３　（仮称）高知市上下水道ビジョン 2027（案）について

那須会長から事務局に対し、次第３「(仮称）高知市上下水道ビジョン 2027（案）について」の説明依頼があり、松岡企画財務課長補佐から説明。

【質疑応答】

〇藤原委員

見直し後の基本理念の副題に「変わりゆく時代への挑戦」を入れられたことが、高知市らしくて素晴らしいと思う。インフラの持続が非常に危機的な状況にあるなかで、変わりゆく時代に挑戦するんだという、前向きな姿勢がここで打ち出されている。また、簡単なことではないがカーボンニュートラル推進を打ち出していることも重要なこと。ぜひ今後もチャレンジを続けていただきたい。

〇井津委員

見直し後の基本方針が「災害に強いまちづくりをめざします」に変更されているが、この「まちづくり」という文言に込められた意味合いを教えて欲しい。

●長崎下水道整備課長

水道ビジョンに下水道ビジョンを加えることで、上下水道で一体的にまちづくりを推進していくということが基本的な考えにある。能登半島地震においても、上下水道が使えなくなることで、まちづくりに大きな影響を受けたことから、災害にも強い安心安全のまちづくりを進めていくという意味を込めている。

４　水道事業の具体的施策について

那須会長から事務局に対し、次第４「水道事業の具体的施策について」の説明依頼があり、星澤水道整備課長補佐から説明。

【質疑応答】

〇那須会長

「水道ＤＸ技術を活用した効率的な漏水調査」とは具体的にどういうものか。

●宮本水道整備課長

衛星を使った漏水調査、ＡＩを使った漏水箇所の特定というもので、県を中心に他市町村と共同で取り組んでいくことを予定している。毎年行っている漏水調査に衛星を活用することで、漏水箇所の絞り込みができ、効率的に調査を行うことが期待できる。

〇井津委員

管路の耐震化や新しい管への更新について、他の項目より進捗状況が遅れているのは、理由があり仕方がないことなのか、もしくは更新ペースを早める必要があるのか説明をお願いしたい。

●宮本水道整備課長

管路更新率とは全管路延長に占める整備延長の割合で、近年は0.6%程度となっていて、少し伸び悩んでいる状況である。新しく整備した管路は100年は使えることから、今後は更新率を1～1.2%に上げていきたいと考えている。進捗が遅れている要因として、南海トラフ地震対策として断水の影響が大きい基幹管路を中心に整備していて、基幹管路は施工費も高額であり、進捗がなかなか伸びないためである。基幹管路の更新が終わってくると更新率も上がってくると考えている。

○井津委員

更新ペースを早めるためには、予算が必要ということか。人員的なものはどうか。

●土居次長

管路の更新費用は、令和５年度までは年額14億円、令和６年度からは２億円上積みし16億円で更新を進めている。物価高騰等により工事単価がここ数年でおよそ１割上がっている。単純計算で14億円に工事単価増を考慮すると15.4億円となり、２億円上積みが工事単価増に吸収されてしまっている。今後の投資計画の見直しの中で、いかに事業費の上積みができるか、それに対応する収入についてどうなるかなどは、経営戦略において提案させていただくので、ご議論をお願いしたい。

人員面では、職員採用等難しい部分はあるが、業務の効率化として官民連携手法も取り入れながらカバーしていきたい。

○谷委員

人材育成は様々な企業での課題である。上下水道局にはどのような資格を持った職員がいるのか把握しておいて欲しい。また、OJTについて、業務の効率化により、昔に比べ現場での技術継承に割く時間が取れなくなってきていると感じる。人員や予算の投入について、現場から主張があれば聞いてあげてほしい。

●土居次長

人材の確保について、採用面では、本庁の職員採用試験とは別に、上下水道事業技術職員採用試験を10年振りに令和４年度から行っている。毎年３～４名程度の採用を行い人材確保に取り組んでいる。人材育成については、上下水道局の人材育成体系を作成し、上下水道業務を行っていくうえで必要な資格取得について計画的に行うことや、OJTに関してはメンター制度があり、職員の育成に努めている。

５　下水道事業の具体的施策について

那須会長から事務局に対し、次第５「下水道事業の具体的施策について」の説明依頼があり、松本下水道整備課長補佐から説明。

【質疑応答】

○藤原委員

八潮市での事故を踏まえて、日本全体として上下水道システムの冗長性と維持管理のしやすさの推進が求められている。高知市は送水幹線二重化をいち早く完成された。これは国の動きを先取りした素晴らしい取組みだと思う。さらに、下水道事業において、下知・潮江水処理再生センター間のネットワーク管を整備し、効率的な整備更新と、非常時の冗長性を確保する取組みは、全国の見本になる素晴らしい取組みだと思う。ぜひ全国の自治体にもこの取組みを発信していただければと思う。

一方で、下水道施設の維持管理について、布設後40年程度の環境で事故が起きた八潮市の道路陥没事故を踏まえると市民の不安も高まっている。新たな点検計画を具体的かつ早期に決定し、本審議会及び市民に対して可視化し、市民の安心安全を高めてほしい。

○井津委員

管路の緊急点検で見つかった損傷は、部分的な補修を速やかに実施するとあるが、この「速やかな補修」というのが非常に大事だと感じる。大規模な更新はどうしても時間がかかるため、「補修」と「更新」を両輪として実施していただくと非常に心強い。

また、挑戦として創エネという言葉を用いている。初めて聞く言葉で、非常に大事なものだと思った。ぜひ、創エネ対策も進めていただきたい。

要望として1点。全国で大雨による浸水被害が発生しているが、高知市では大きな浸水被害は近年発生していない。住民として雨に強いという認識があるが、この油断が早期避難の行動を妨げてくるのではないかと心配している。市民に対して、ポンプ場が老朽化していることや更新状況を伝え、油断により災害を大きくしてしまうことがないように、積極的な広報活動を進めて欲しい。

○山中委員

通水100周年の記念講演を聞かせていただいた。近畿大学の浦上教授による講演であったが、非常に分かりやすく、わずか1時間で上下水道事業に関する認識を改めさせられる素晴らしい内容であった。あのような講演を市民に対して行ったことはあるのか。

●山本上下水道事業管理者

浦上教授に講演をしていただく機会は何度かあったが、市民向けというのは行ったことがない。式典後に他の来賓の方からも意見をいただいており、市民に向けて、上下水道事業の現状を理解していただくような講演を浦上教授にお願いしたいと感じている。

○山中委員

近年の大雨では、広域的な浸水被害が発生している。浸水対策について、河川を管理する県やその他の機関などと連携する体制ができているか。

●山本上下水道事業管理者

高知県や上下水道局、市河川水路課など関係機関が集まる調整会議があり、その場で各機関がどのようなことができるのか協議し、連携を取り対応をしている。

例えば、平成 26 年の大雨で万々商店街が浸水したため、その後の浸水対策では県が河川の護岸整備を、市が補完ポンプの整備を行うなど連携した事業を実施している。

●森岡次長

県との連携に加えて、高知市災害対策本部の水防要員に局職員が発令されており、災害発生時には高知市と上下水道局の連携がとれる体制となっている。

〇谷委員

地震対策の広報は積極的に行っているが、浸水対策については近年トーンダウンしているように感じるため、大雨に関する対応についても広報をお願いしたい。物理的に対応できる限界はこれくらいなので、自助・共助としてこういう事が必要であるという感じの説明をした方がよいと思う。

●森岡次長

1000 年に 1 度といわれる時間 160 ミリ相当の雨が降ったとすれば、既存のポンプ場では全く対応ができないため、その時は早期の避難しかない。一番大事なこととして、早めの避難意識をもってもらうよう説明していく。

〇藤原委員

水道事業・下水度事業に共通する意見として、現在、能登半島地震や、八潮市での道路陥没事項を踏まえて、国においても先送りによる収支均衡から、適切な都市計画へ方針がシフトしている。

一方で、水道料金無料化について国会での質疑応答が報道されており、行政が関与できる国民への支援策として理解できる部分もあるが、水は無料というミスリードが広がらないよう、上下水道事業の持続に必要な投資について、市民に理解いただけるように、今後も引き続き丁寧な説明をしていただきたい。

6　閉会

山本上下水道事業管理者から閉会のあいさつ